

議事録第2号

ソ連共産党中央委員会政治局チェルノブイリ原発事故対策特別作業班

1986年4月30日

出席者：

ソ連共産党中央委員会政治局員

同志 ルィシコフ N. I .
リガチョフ E. K .
ヴォロトニコフ V. I .
チェブリコフ

ソ連共産党中央委員会政治局員候補

同志 ドルギフ V. I .
ソコロフ S. L .

ソ連内務相

同志 グラソフ A. V .

会議招致参加者：

ソ連共産党中央委員会重工業・エネルギー部長

同志 ヤストレボフ I. P .

ソ連科学アカデミー総裁

同志 アレクサンドロフ A. P .

国防省第1次官

同志 アフロメエフ S. F .

中規模機械製作省第1次官

同志 ペトロシヤンツ A. M .

国防省次官

同志 アルトゥニン A. T .

ソ連保健省第1次官

同志 シチェーピン O. P .

国家水文気象委員会第1副委員長

同志 セドゥノフ Yu. S .

ソ連高等教育・中等専門教育相

同志 ヤゴヂン G. A .

ソ連電力エネルギー省全ソ生産合同

「ソユザトムエネルゴ」長官

同志 ヴェレテンニコフ G. A .

中規模機械製作省第16総局長

同志 クリコフ E. V .

ソ連共産党中央委員会重工業・エネルギー部次長

同志 フロリシェフ V. M .

1. チェルノブイリ原発の状況について

この問題に関するドルギフ同志の情報を了解する。

2. ソ連ヨーロッパ部の放射線状況について

全般として放射線レベルが低下しつつあり、また、ポーランド領内で放射能の広がりが記録され、風向の変化によって今後、チェコスロバキア、ハンガリー、ルーマニアに達する恐れがあるとのセドゥノフ同志の報告を考慮する。

ソ連ヨーロッパ部領内の放射線状況に関して毎日の情報を確保するよう、国家水文気象委員会に委任する。

3. 事故処理作業への国防省部隊の参加について

次のことにつき考慮する。

- 民間防衛部隊により、鉄道駅や空港を含め各ポイントの放射線監視網が組織され、道路除染作業のための技術が用意されつつあるとのアルトゥニン同志の報告。

- チェルノブイリ原発への無線操縦機材の到着、また、避難民への軍用配給食糧 1 万食の提供及び本年 5 月 2 日に予定され、5 月 4 日に事故現場での作業に着手する軍要員 2 千人と技術機材 6 5 0 台による化学防護部隊の編成に関する、アフロメエフ同志の報告。現在、現地ではすでに 6 0 0 名が活動している。

発電所内とその近隣地域の除染作業を最大限、急ぐようアフロメエフ同志に委任する。

- 4 . キエフ及びミンスク留学中のイギリス、フランス、イタリア各国学生の召還についてこの問題に関するヤゴチン同志の情報を了解する。

ソ連閣僚会議総務局 総務課 2 印

N . ルィシコフ